

花園小学校	重点課題推進校	理数教育（学習形態の工夫）
-------	---------	---------------

## 1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 「学び」を身につけるための工夫

①数学的な見方・考え方を働かせるための工夫

・算数・数学用語、言葉、図、式、表、グラフなどを適宜活用し、関連付けながら児童の思考を整理していく。また、着目させたい事象や数量や図形及びそれらの関係などに目を向けさせるために独自アイテム（『見えマスめがね』）を活用していく。

②学びを活かす場の工夫

・学習内容の定着・理解をより確かなものにするために終末部分で類題に取り組む場を設定する。

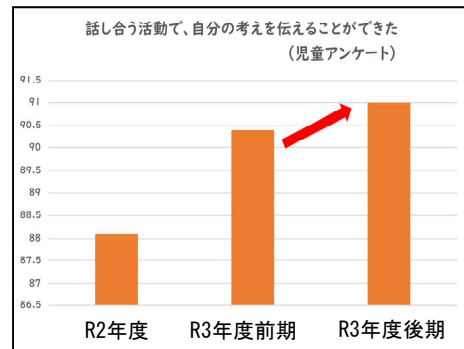
(2) 重点2 考えを深めるための学習形態の工夫

・自分の考えや思いがより深まったり、より確かなものにしていったりするためにペア・グループ学習を取り入れていく。研究授業を通して指導方法を検討し、改善していく。

## 2 取組の検証

重点1においては、複数回外部講師より「数学的な見方・考え方」を働かせることについて具体的に指導助言を頂き、学びを深めることができた。また、学校全体で共通実践がされているところが良い、見方・考え方を働かせるために「めがね」は有効であった等の助言が頂けた。

また、重点2においては児童アンケートの結果で検証を行った。左図のように年々肯定的な回答をする児童が増えている。



## 3 成果と課題

重点1の①数学的な見方・考え方を働かせるための工夫では、『見えマスめがね』を活用することで論理的に思考することができるようになってきた。しかし、まだその活用の仕方や教材研究の深さに課題がある。

重点1の②学びを活かす場の工夫では、毎回の授業内で類題に取り組んで来たため、個人差はあるものの、理解度があがってきている。一方で、類題の時間の確保も含め、より理解を深めるためには、導入・展開・終末部分をどのようにデザインしていくか、まだまだ追究する余地がある。

重点2では、ペア学習中に繰り返し説明することで思考が整理されていったり、よりわかりやすい説明の仕方を獲得していったりする姿が見られた。また、多様な意見があることや、新しい考えが思いつくなど、ペア学習を通して良い気づきが出てくる児童も見られた。しかし、ペア・グループ学習をさせた後にどのような形で共有したり深めたりするかが曖昧であったため、やりっぱなしの状態が終わることがあった。今後は学習活動全体を総合的に捉えていく必要がある。